

ID	感染症(PT)	出典	概要
1	E型肝炎	J Clin Microbiol. 53(2015) 3547-3552	米国において、国立衛生研究所の職員がブタの手術中に誤ってメスで指を損傷後、E型肝炎ウイルス(HEV)に感染した。
2	E型肝炎	PRZEGL EPIDEMIOLOG. 70 (2016)11-14	HEVに感染した患者2,000万例のうち、全世界で57,000例が毎年死亡している。免疫抑制状態にある患者や妊婦におけるHEV感染は深刻な経過をたどり、死亡に至る症例も報告されている。
3	インフルエンザ	ProMED-mail 20160703.4323386	米国におけるインフルエンザA(H1N2)変異型(H1N2v)の報告。ミネソタ州においてヒトのH1N2v感染が報告された。
4	インフルエンザ	ProMED-mail 20160625.4308644	米国におけるH1N2vの報告。ミネソタ州及びウィスコンシン州においてブタとの接触があったヒトにおけるH1N2v感染が報告された。
5	インフルエンザ	Outbreak News Today (2016.07.01)	米国におけるH1N2vの報告。ミネソタ州及びウィスコンシン州においてブタとの接触があったヒトにおけるH1N2v感染が報告された。
6	インフルエンザ	CDC FLUVIEW 2015-2016 Influenza Season Week 37 ending September 17, 2016	米国におけるH1N2vの報告。ウィスコンシン州及びミネソタ州において、H1N2vのヒト感染症例が各1例報告された。発症する前の週にブタとの直接的な接触があったことが報告され、ヒト-ヒト伝播は特定されていない。
7	インフルエンザ	CDC FLUVIEW 2016-2017 Influenza Season Week 46 ending November 19, 2016	米国におけるH1N2vの報告。アイオワ州において、H1N2vのヒト感染症例が1例報告された。発症する前の週にブタとの直接的な接触があったことが報告され、ヒト-ヒト伝播は特定されていない。
8	インフルエンザ	Emerg Infect Dis. 23(2016)152-154	ブラジルにおけるH1N2v感染の報告。ブラジル南部のパラナにあるカストロシティの農村部において、H1N2vヒト感染例が報告された。当該患者は養豚場で働いており、ブタとの直接接触が確認された。
9	インフルエンザ	http://www.cdc.gov/flu/news/variant-virus-pig-exposure.htm	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(H3N2v)の報告。ミシガン州及びオハイオ州においてH3N2vのヒト感染例がそれぞれの州で各2例報告された。4例全例において、発症の前週に品評会でブタとの接触があった。各州におけるそれぞれのブタへの曝露事象が感染に関連しており、異なる州の症例の間に関連性は認められない。品評会の複数のブタがH3N2v感染に対して陽性と判定された。
10	インフルエンザ	ProMED-mail 20160818.4423683	米国におけるH3N2vの報告。ミシガン州においてブタのH3N2v感染が報告された。ヒト感染は報告されなかった。
11	インフルエンザ	CDC FLUVIEW 2016-2017 Influenza Season Week 2 ending January 14, 2017	米国におけるH3N2vの報告。ミシガン州及びオハイオ州においてH3N2vのヒト感染例計7例が報告された。当該症例全例で、発症の前週に品評会でブタへの曝露があったことが報告されている。
12	インフルエンザ	Outbreak News Today (2016.08.26)	米国におけるH3N2vの報告。ミシガン州及びオハイオ州においてH3N2vのヒト感染例計7例が報告された。当該症例全例で、発症の前週に品評会でブタへの曝露があったことが報告されている。
13	インフルエンザ	ProMED-mail 20161030.4592086	米国におけるH3N2vの報告。2016年8月、H3N2v感染のヒトにおける検査確定例18例が報告された。18例全例が、ミシガン州及びオハイオ州の農産物品評会に参加し、ブタへの曝露があったことが報告されている。
14	インフルエンザ	AASV (2016.11.02)	米国におけるH3N2vの報告。2016年8月、H3N2v感染のヒトにおける検査確定例18例が報告された。18例全例が、ミシガン州及びオハイオ州の農産物品評会に参加し、ブタへの曝露があったことが報告されている。
15	インフルエンザ	CDC/MMWR. 65(2016)1157-1160	米国におけるH3N2vの報告。2016年8月、H3N2v感染のヒトにおける検査確定例18例が報告された。18例全例が、ミシガン州及びオハイオ州の農産物品評会に参加し、ブタへの曝露があったことが報告されている。
16	インフルエンザ	http://www.cdc.gov/flu/swineflu/variant-cases-us.htm	米国におけるインフルエンザウイルス(H3N2v, H1N1v, H1N2v)の報告。2005年12月以降、計385例の変異型のインフルエンザウイルス感染が検出された。大多数の症例が発症前の直接又は間接的なブタへの曝露が報告されている。感染者との濃厚接触による限定的な感染が認められたが、継続したヒト-ヒト感染は記録されていない。

ID	感染症(PT)	出典	概要
17	インフルエンザ	ProMED-mail 20170102.4761669	2016年12月16日、WHOはカナダにおけるH3N2vのヒトの確定例1例の通知を受けた。当該症例は発症前に農場で病気のブタに曝露していたことが確認された。
18	インフルエンザ	ProMED-mail 20160913.4485723	インド Morehにおいて、ブタインフルエンザ感染によりブタが処分された。
19	インフルエンザ	ProMED-mail 20161212.4692892	オランダにおいて、インフルエンザA(H1N1)変異型(H1N1v)のヒト感染症が確認された。
20	日本脳炎	ProMED-mail 20161029.4594738	インド Odisha州のMalkangiri districtにおいて日本脳炎のアウトブレイクによりヒト63例が死亡した後、近隣のKoraput districtのブタにおいて日本脳炎ウイルスが検出された。ブタの血液サンプル28検体のうち、8検体が日本脳炎ウイルスに陽性と判定された。
21	日本脳炎	徳島県立保健製薬環境センター年報.No.5 71-73(2015)	徳島県において、感染症流行予測調査事業の一環として、ブタを対象とした日本脳炎感染源調査が実施された。調査の結果、2013年7月上旬、2014年8月中旬に日本脳炎ウイルスによる汚染注意報発令基準値を超える抗体価が確認され、日本脳炎ウイルスの活動が活発であることが推測された。
22	口蹄疫	Weekly Disease Information 2016年11月24日号 Vol.29 No.47	中国における口蹄疫ウイルス(血清型O)の報告。江西省の農場のブタにおけるアウトブレイクが報告された(開始日2016年11月15日)。ブタにおいて疑い例482例、症例208例、死亡145例が報告された。感染源は、不明又は結論に達していない。
23	ロタウイルス	PLoS One. Doi:10.1371/journal.pone.0154734 May 4, 2016	米国におけるロタウイルス(RV)の報告。北米エリアで収集したブタの糞サンプルについて、ロタウイルスA、B、C(RVA、RVB、RVC)の有無を検査した結果、82%が陽性であった。3レベル混合効果ロジスティック回帰分析の結果、ブタが保有するRVは複雑な疫学を有しており、RVはその種によって異なる年齢群と関連しており、また、北米の各地域によって変動があることが示された。
24	豚流行性下痢ウイルス	Can Vet J. 57(2016)84-88	カナダにおける豚流行性下痢(PED)ウイルス(PEDV)の報告。2014年1月のカナダ オンタリオ州におけるPEDVの流行について調査が実施され、オンタリオ州の農場におけるブタ血漿由来の飼料からPEDVが検出された。ウイルスに汚染された飼料が、オンタリオ州におけるPEDの発現と拡散の危険因子であるという仮説が示された。
25	ウイルス感染	Acta Vet Scand. 58(2015)51	リトアニアにおけるブタ繁殖・呼吸障害症候群ウイルス(PRRSV)の報告。リトアニアにおいて、野生イノシシから採取した組織及び血清サンプルのRT-PCR検査の結果、野生イノシシにおいてPRRSVが蔓延していることが明らかとなった。また、野生イノシシが、家畜ブタ間で確認された系統とは異なる遺伝子系統のPRRSVを保有する可能性が示され、リトアニアにおいては野生イノシシがPRRSVの自然宿主となる可能性が示唆された。
26	クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS ONE. 11(2016) e0153425	非定型牛海綿状脳症(BSE)に感染したウシの臨床徴候発現前及び疾患進行中の血液における遺伝子発現の変化が分析されたとの報告。
27	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省 報道発表資料 平成28年7月5日	本邦におけるスイス及びリヒテンシュタイン産牛肉等の輸入再開について。スイス及びリヒテンシュタイン産牛肉等について、食品安全委員会の科学的な評価結果を踏まえた両国政府との協議等が終了したため、輸入が再開された。
28	ブドウ球菌感染	THE PIG SITE (2016.10.04)	英国のスーパーマーケットにおいて、英国で生産したブタ肉製品97サンプルを調査した結果、3サンプルから家畜関連MRSA(LA-MRSA)が検出された。
29	ブドウ球菌感染	THE PIG SITE (2016.11.14)	ノルウェーの農場で、ブタにMRSAが検出された。MRSAが検出された農場では、食品安全局の許可なく農場の内外に動物を移動することが禁止された。
30	レンサ球菌感染	Outbreak News Today (2016.07.07)	香港における豚レンサ球菌感染の報告。喀痰、眩暈、耳鳴、難聴を伴う頭痛と咳嗽を主訴に2016年6月24日入院した患者の血液及び脳脊髄液から豚レンサ球菌が検出された。患者は生鮮市場で食肉処理業者として働いており、発症の2、3日前に指に擦過傷を負っていたことが確認された。
31	レンサ球菌感染	Outbreak News Today (2016.11.11)	香港における豚レンサ球菌感染の報告。2016年11月8日から発熱、眩暈、嘔吐、右手の痛みと腫脹を主訴に入院した患者において、蜂窩織炎と敗血症が確認され、血液サンプルから豚レンサ球菌が検出された。患者には最近の渡航歴はなく、同年11月7日に自宅において、地元市場で買ったブタの内臓を素手で調理したことが確認された。

ID	感染症(PT)	出典	概要
32	炭疽	ProMED-mail 20160807.4400115	フランスにおける炭疽の報告。Sarrebourogの近くに位置するMoselleの3カ所の農場で死亡した動物を分析したところ、当該動物が炭疽に感染していたことが明らかになった。2016年8月7日時点で牧草が汚染されていると考えられるのは4カ所であり、19頭のウシが本疾患で死亡した。
33	炭疽	Weekly Disease Information 2016年7月14 日号 Vol.29 No.28	カザフスタンにおける炭疽の報告。Pavlodar, Irtyshsk, Irtyshskiyiの村において炭疽のアウトブレイクが報告された(開始日:2016年7月9日)。ウシにおける疑い例863例、症例1例、死亡1例、ウマにおける疑い例256例、ヒツジ又はヤギにおける疑い例839例、ブタにおける疑い例181例が報告された。感染源は、不明又は結論に達していない。
34	ウシ結核	http://www.9and10news.com/story/31983384/alcona-county-beef-herd-tests-positive-tuberculosis	米国におけるウシ結核の報告。2016年5月、ミシガン州のウシの群において、65頭目のウシ結核の感染が確認された。
35	ウシ結核	PLoS ONE. 11(2016) e0145735	米国におけるウシ結核の報告。2005年から2009年にミネソタ州において、12頭のウシと27頭のオゾロジカでのウシ結核感染が確認された。
38	肺炎桿菌	J Glob Antimicrob Resist. 7(2016)67-68	ブラジルにおいて、ブタから分離されたCTX-M-15産生肺炎桿菌ST340のゲノムドラフト配列が示された。
37	サルモネラ症	Outbreak News Today (2016.07.21)	米国におけるサルモネラ症の報告。ワシントン州シアトルのGolden Gardens公園で2016年7月3日に開催された野外宴会に関連したサルモネラ症の発生が報告された。2016年7月21日時点、少なくとも6例のサルモネラ症が確認されている。感染については豚肉との関連が疑われるとのこと。
36	サルモネラ症	ProMED-mail 20160703.4323241	ポルトガルにおいて分離された多剤耐性及び銅耐性のサルモネラ及びクローン株において、コリスチン耐性遺伝子mcr-1が検出された。
39	病原体耐性	ProMED-mail 20160528.4251552	米国において、コリスチン耐性遺伝子mcr-1を有する大腸菌がヒトの尿及びブタの小腸から検出された。米国における初めての報告である。患者は過去5ヶ月間米国外へ渡航しておらず、米国外で感染した可能性は低いと考えられた。
40	病原体耐性	ProMED-mail 20160709.4335297	ベルギーの研究者チームは、コリスチン耐性遺伝子mcr-1を含まないウシ及びブタ由来コリスチン耐性大腸菌92株から無作為に抽出した10株中3株において、mcr-1と異なるmcr-2を発見した。
41	クロストリジウム感染	ProMED-mail 20160726.4369258	オーストラリアにおいて、ウシのクロストリジウム感染のアウトブレイクが報告された。
42	リケッチア症	PLoS One. Doi:10.1371/journal.pone.0153303 April 11, 2016	ブラジルのウマにおけるリケッチア陽性率に関する報告。ブラジル サンパウロにおいて、2012年から2013年にかけて、504頭のウマについて、Rickettsia rickettsii, Rickettsia parkeri, Rickettsia belliiに対する血清学的検査が実施され、183頭(36.3%)が陽性であることが確認された。うち73頭(39.9%)はヒトにおけるエンデミックの発生が報告されていない地域のウマであった。
43	Q熱	PLoS One. Doi:10.1371/journal.pone.0156710 May 31, 2016	韓国で飼育されているウマにおいて、Coxiella burnetii及びCoxiella様細菌(CLB)の流行調査が実施された。2007年から2013年に収集された816の血液サンプルのうち、1.3%にCoxiella burnetiiが、0.7%にCLBが確認された。済州島からのシーケンスの1つがグレードBのシーケンスに相似している一方で、北部で採取された5種類のシーケンスは新しいグレードに分類された。これらはCoxiella属のシーケンスの多様性を示唆している。
44	ライム病	J Vet Intern Med. 30(2016)1300-1304	米国サウスウエストバージニア州でのウマにおけるボレリア・ブルグドルフェリの血清陽性率を測定した結果、33%のウマにおいて少なくとも1種類の細胞表面タンパク質(OspF)が陽性であった。年齢の高いウマほどOspF陽性となる割合が高いことが示された。また、5~17ヶ月後の追跡検査の結果は、初回の検査結果と同様であることが示された。
45	旋毛虫症	Outbreak News Today (2016.08.28)	アルゼンチン ブエノスアイレス州の保健省当局は、市民に対し、寄生虫感染症である旋毛虫症が増加しているのを、自家製ソーセージ、特にメーカーのラベルがないものを食べないように警告した。2016年8月23日時点、Merlo, Moreno, Marcos Pazで旋毛虫症のヒト49例が報告されている。
46	ジアルジア症	日本熱帯医学会大会プロ グラム抄録集(2015) 47- 48	ベトナムにおけるジアルジア症の報告。ジアルジア症は、糞便中に排出されたジアルジア原虫嚢子が食物や水を介して経口感染する原虫感染症である。ベトナムにおいて、ジアルジア陽性者が確認された家の周辺で飼育されているウシの便から、大量のジアルジアが検出され、家禽(特にウシ)からヒトへのジアルジアの伝播が示唆された。